

慢性的なめまい 真武湯を試して

Q 六十歳、女性。数年前、靴をはいて上を向こうとしたところ、猛烈なめまいと耳鳴りに襲われました。以来、足もとがおぼつかないような不快感と急に起きあがるとめまいがする状態が続いています。

A めまいは内耳や脳のリンパ液や血液の流れなどさまざまな原因で起こり、耳鳴り・難聴・嘔気（おうき）・頭重感などを伴うことが多く、めまいの訴え方も実に多彩である。

めまいは一般に回転性のめまいとふわつとするめまいに分けられる。漢方では回転性のめまいには沢瀉湯（たくしゃとう）がまず試みられる。古典には「目の前が暗くなり、小舟に乗って揺られているようにゆきゆきし、霧の中を歩

いている」ような感じによい、といった記載がみられる。

ふわつとするめまいには「のぼせ」があれば苓桂朮甘湯（りょうけいじゅつかんとう）、「のぼせ」がなければ真武湯（しんぶとう）がよい。沢瀉湯は急性期のめまいによく、苓桂朮甘湯は比較的若年者のめまいに、真武湯は比較的高齢者の慢性的なめまいに用いられる。

真武湯が有効な症状は、歩いていてフラツとする、足もとがなんとなくおぼつかなく、まっすぐに歩こうとしても横にそれる、といったものである。

質問者は低血圧傾向でのぼせがなく、足が冷えるとのことであるから、真武湯と沢瀉湯を併用すると効果的である。